



## 終わりを始まりにするために

校長 富士 健一

## 「生きろ！」

映画「ゴジラ - 1.0」において、登場人物たちが何度となく口にし、この映画のキーワードともなっている言葉。今年度の日本映画界にとって、最大の話作となり世界各国からも評価された、山崎 貴 監督・脚本・VFX によるゴジラシリーズ最新作にしてゴジラ生誕 70 周年記念作品。「戦後、日本。無（ゼロ）から負（マイナス）へ。」というキャッチコピーで描かれるこの作品は、太平洋戦争後、焦土となった東京で必死に生きようとする人々の前に巨大怪獣「ゴジラ」が出現し、猛威を振るって復興に向かう日本人の生命財産を再び脅かすという何とも残酷な設定。占領下で武装解除されて成す術のない日本人の心を絶望と恐怖とが支配する中、元特攻隊員の主人公（神木隆之介）が元海軍を中心とした民間人（佐々木蔵之介・吉岡秀隆・山田裕貴・青木崇高ら）とともに英知を絞って「ゴジラ」に立ち向かい、愛する人たち（浜辺美波・安藤サクラら）を命がけで守ろうとするヒューマンドラマ。上映期間中に能登半島地震が起きたことが、この映画をさらにリアルなものとしています。



1954 年公開 本田猪四郎 監督によるモノクロ映画「ゴジラ」。大戸島近海に住む伝説の怪獣「呉爾羅」がビキニ環礁での水爆実験の影響で強大化した「ゴジラ」として東京に初めて出現して以来 70 年間、シリアスな大人向け作品としても、娯楽的子供向け作品としても、科学の発達による自然環境破壊が人類にもたらす警鐘的存在として、常に「ゴジラ」は、伊福部 昭 作曲の有名なテーマ音楽と共に、日本に世界に向けて「これでいいのか？」と、問いを与え続けてきました。現代日本の官僚政治と国際関係を皮肉った設定の中で複数形態に変容し個体が進化する「ゴジラ」との戦いを描いた 庵野秀明・樋口真嗣 監督の前作「シン・ゴジラ」は、未来に向かって歩みを進める人間が国境を越えて自然と共存する意味を深く考えさせられましたが、本作の方が、人が生きる意味をストレートに考えさせられ感動します。私は、映画館で本作の劇場カラー版 2 回、モノクロMX 4D 版 1 回を鑑賞し（見過ぎですね）、「ゴジラ」の普遍的魅力と、「生きろ！」という言葉が示す再生・復興・存続・発展を願う「始まりの決意」を心に刻み込みました。

長々と、私の趣味である「ゴジラ」の話に付き合わせましたが、ここからが本題…。人が生み出してきたものには、必ず始まりと終わりがあります。けれども、終わりを迎えるからこそ始まりがあるとも言えられます。長い歴史の中で、人は多くの命やものを犠牲にしながら戦い、始まりと終わりとを繰り返して今に至っています。今の世界や日本、ふるさと福井・小浜・口名田、そして口名田小学校。なぜ、様々な始まりと終わりとを繰り返しながらも脈々と続いているのか。そこには常に「未来は幸せ」を願って、「生きろ！」という先人たちからのメッセージがあるからだと思います。壮大なものも小さなものも、見栄えのよいものも醜く汚らしいものも、欲しいものも要らないものも、好きなものも嫌いなものも、それら全てが尊い命のつながりを生み続けるために必要なものとして存在する事実を、私たちは受け止め、受け入れ、時に悩み、迷い、苦しみながらも、「未来は幸せ」を思い描いて前向きに、元気に、精一杯生きる。そして、節目を迎えた時に、今を生きる者が次の世代へとバトンを渡すことで、終わりが始まりになっていくのです。

この 3 月で 6 年生は口名田小学校を卒業、他の児童は各学年を修了します。PTA 役員の方々も年度末で任期を終えますし、教職員の中には人事異動や退職により本校を去る者もいることでしょう。いよいよ本校も今年度の終わりを迎えようとしています。そんな終わりを始まりにするために、過去を思い出としてしまい込んだりせず、自分自身と正面から向き合っ、過去から学びとったことを仲間や後輩たちに伝え、勇気をもって次のステージへと自ら歩みを進めていきましょう。

目の前に大怪獣「ゴジラ」は出現しませんが、荒ぶる神として人類に試練を与える「呉爾羅」のような存在に怯えるのではなく、乗り越え克服していけるよう、仲間や家族との絆の力を信じ、互いのことを大切にしましょう。何があっても「生きろ！」と心に誓い、誇り高く歩みましょう。

＜教職員の声＞ 3月は、事務の新田 亜優（にった あゆ）先生のコーナーです。

【 疑問との向き合い方 】

ニュース番組を見たり、世間話をしたりしていると、疑問がたくさんわいてきます。「国会議員ってどうやってなるんだろう?」「どうして月が特別大きく見える日があるの?」などなど…。今まで勉強してきたはずの内容ですが、どうにも思い出せないのも、私はすぐにスマホを手に取り、答えを検索します。このことは習慣みたいなもので、手前味噌ですが良い習慣だなと思っていました。

少し前に友人と話している中で、ふと「京都府と大阪府はなぜ『府』なのだろう?」と疑問がわきました。友人も知らなかったもので、いつも通り検索しようとスマホを手に取ると、友人から「検索するのは待って、今持っている知識から推理しよう。」と言われました。友人は、まず『府』という漢字を使った単語を挙げ、そこから『府』という漢字の意味を推測し、歴史の知識と照らし合わせながら友人なりの仮説を立てました。そのとき私は、友人の豊富な知識や思考力はさることながら、疑問に対する姿勢に感動し、深い尊敬の気持ちを抱きました。

わからないことをわからないままにしない習慣は、自分の良いところだと思っていました。ですが、さらにそこからもう一步踏み込んで「本当にわからないのか?自分の持っている知識から推測できないか?」と自分に問いかける習慣を持っていたら、もっと深い学びになっていたはずです。今まですぐに検索していた事を「もったいなかったなあ」と感じると同時に、「これから習慣づけていくぞ!」と燃えています。

さて、そんな私が最近抱いた小さな疑問は「なぜ2月末に発売される雑誌が4月号なの?」です。いろいろと推理してみましたが、△60点くらいの回答しかできませんでした。皆さんはどう推理しますか?

.....



※：※週刊誌の発行日については、発行元の発行スケジュールを参照してください。また、発行元の発行スケジュールは、発行元の発行スケジュールを参照してください。

＜次年度の学校経営方針（案）＞

- 学校教育目標「つながり 学ぶ 元気な子」
- めざす学校像「夢いっぱい 楽しみいっぱい 幸せいっぱい」
- めざす児童像
  - 豊かな心「つながり合い、本気で挑戦し続ける子」
  - 健やかな体「命を守り、たくましく伸びる子」
  - 確かな学力「学びに向かって自走し、深く探究する子」
  - ふるさと愛「ふるさとを愛し、ふるさとから愛される子」
- 教職員に求める意識・姿勢
  - ◎ 「当たり前をやり切り 当たり前を疑い 当り前のレベルを上げる」
  - ◎ 「感性を磨き、心で向き合い、本気を引き出す」

＜「保護者の声」の要望を具現化する改善プラン＞

- 熱中症危険回避 ①体育大会の開催時期変更（9月上旬→6月上旬） ②体罰期登下校期間の設定（6月～10月）
- 感染症クラスター回避 ①通年で校外活動時の感染防止（長時間バス・会場移動時の検温・マスク徹底等）②臨時休業・学年閉鎖判断に必要な情報収集・学校医との連絡体制強化
- GIGA タブレット有効活用 ①学校・学年閉鎖時や出停児童へのオンライン対応充実 ②AIドリル AIアプリ活用推進
- 登下校や学校生活の安全確保 ①冬季の登校時刻を見直し（11月下旬～3月） ②子供による安全点検の導入
- 修学旅行における学びと思い出づくり 目的意識の共有と子供たちの思いや願いを大切にされた内容や行程を企画立案
- プール学習の参観 「プール学習参観週間」の設定を検討
- チェレンジする機会の保障 各学年で困難克服型活動を設定
- お便りの親しみやすさ読みやすさ 学年通信やブログとの差別化を図った、双方向での情報交換型学校だよりを継続
- 大規模災害時に関する情報共有と連携 安全教育の推進、PTAと連携した「防災・災害発生時研修」の実施を検討
- 年上の自覚と責任 上位学年のリーダーシップ発揮場面と貢献・自己実現を重視した児童主体の活動を設定

－3月～4月初めの行事予定－

- 1 (金) PTA 登校指導、学校だより発行日 読み聞かせ (1・2・3・4年)
- 4 (月) PTA 登校指導 学期末漢字テスト (6年) 水力発電見学 (4年)
- 5 (火) 学期末計算テスト (6年) 3年生南川校外学習 栄養教諭・ICT支援員来校
- 6 (水) 委員会 (最終) PTA三役・特別委員合同会議
- 7 (木) 卒業を祝う会 (2・3限)
- 8 (金) 前田先生 今年度最終勤務日
- 11 (月) 学期末漢字テスト (1～5年)
- 12 (火) 学期末算数テスト (1～5年) 谷澤先生 今年度最終勤務日
- 13 (水) 卒業式予行練習
- 14 (木) 卒業式会場準備 1～3・6年 14:00 下校
- 15 (金) 卒業証書授与式 1～5年 11:30 下校 学校集金日
- 19 (火) 吉本先生・メリンダ先生・稲葉先生 今年度最終勤務日
- 21 (木) ストープ撤去、今年度給食最終 地区別子ども会、大掃除 15:00 下校
- 22 (金) 修了式、給食なし 11:30 下校
- 25 (月) 学年末休業 (~31)
- 26 (火) 離任式 8:40 全校下校 9:40
- 4/1 (月) 学年はじめ休業 (~7)
- 4/8 (月) 入学式 4/9 (火) 始業式

↓高学年は必ず書いてお家の方に見せ、提出しましょう。

.....きりとりせん.....

＜わたしのこえ＞ 3月号 ※ころがあたたかくなつたこと、がんばつたこと、やってみたことなど、ぜひしょうかいしてね。

ねん

なまえ：

---



---



---

## ＜保護者の声＞ ～2月号返信より～



◇早いもので、3月、卒業と進級の月になりました。卒業式は小学校最大の晴れ舞台であると同時に、6年生の次なる試練に向けた門出の時でもあります。地域・保護者・全校を挙げて、感謝の気持ちと期待を込めて、温かさや厳しさというエールで送り出していきたいものです。◇この1年間、毎日のブログ作成と、毎月の学校だより発行を通して、子供たちの様子を間近で見ながら即座にお伝えしたり、保護者の皆様と子育てや学校運営について情報を交換したりできたこと、校長としての私自身の大きな宝となりました。ありがとうございました。

### 【 低学年（1～3年） 】

- \*しん1ねんせいがい にゆうがくしてくるの たのしみだね。やさしいえがおで おむかえしてあげようね。→※1
- \*大切な家族を突然なくすという経験をして、日頃から“ごめんなさい”“ありがとう”を口に出して伝えることの大切さを学びました。イライラは態度に出さず、いつもニコニコ…父が教えてくれました。→※2
- \*「口名田 大すき！」素敵な言葉ですね。元気にあいさつをしてくれる素直で優しい口名田の子供たちが大好きです。これからも、子供たちの笑顔を守っていききたいです！
- \*学習発表会、おつかれさま。毎年、成長を感じられてうれしいです。→※3
- \*なわとび大会に向けて頑張っている姿がカッコイイです\*
- \*下島先生と同じく兵庫県出身です！口名田に来て早〇年…。あたたかい地域の方、保育園の先生、小学校の先生に恵まれて、ここで子育てができてよかったなあと思います。どの学年の子も可愛らしいなあと、ほほ笑ましく感じています。



### 【 高学年（4～6年） 】

- \*先日、子供が「こころぼかほかうんどう」のカードを持って帰ってきました。子供自身が苦手なことを「よわみ」として書いているところにもおどろかされましたが、その裏には「だいじょうぶ」から始まる励ましの言葉での返事が書いてあり、とても心がほかほかしました。もちろん、子供も同じ気持ちだったと思います。返事をしてくれた健康委員会のみなさん、ありがとうございました！→※4
- \*毎日があたり前だと思っていましたが、失ってはじめて気づくあたり前の生活がとても幸せであることを。毎日、家族でご飯を食べること、友達がそばにいてくれること、健康な体に感謝して生きていこうと思います。→※5
- \*先日の学習発表会、家で毎日練習した甲斐があって、こちらがヒヤヒヤする長文も間違えることなくすらすら言え、とても感心しました。内容も分かりやすく、クラス全員でいろいろ考えたのかと思うと、成長を感じる学習発表会でした。 ・毎日頑張っていると思います。
- \*校長先生の幼少期のお話、誰しもが何かしらの形で経験してそうなの…。子供たちも何かきっかけで…それが将来を決めてくれる…。実感のあるお話“ステキ”です。トランペット、いいですね！！
- \*アオッサでの発表、いい経験になってよかったと思います。→※6
- \*学習発表会を見せてもらいました。口名田で作ったお米のことを分かりやすく伝えてくれて、楽しかったです。口名田は、地域の方の心が温かく、とてもいい所です。子供たちにも、大すきなふるさとであって欲しいです。そして、私自身も、口名田のいい所を守っていききたいと思いました。→※7
- \*学習発表会、おつかれさま。まだ発表があるけれど、がんばってね。人前で話すのがたくさんあるのは、良い経験だと思います。→※8
- \*学習発表会、都合が悪くて行けなかったの、コロナ禍のようにzoomでの配信があるとよかったです。
- 今年度も配信を検討はしましたが、①限られた手数の中で、発表を聞きに来てくださる方々への対応(大雪による駐車場確保や車の誘導等)に労力を割くことを優先したこと ②昨年度も、今年度と同じような大雪状況の中、かなり労力しながら配信を行った割にアクセス実績があまりなかったこと という2つの理由から配信を行いませんでした。今回のご意見も参考に、アフターコロナと言いつつ様々な感染症と付き合っていかなければならない状況を踏まえ、保護者の方々や出席停止児童へ向けた当日のオンライン配信や録画での後日配信など、その目的や意義と必要の有無を合わせて検討していきます。
- \*一つ一つの行事が終わって、成長を感じるとともに、卒業までのカウントダウンが始まり、小学校から去ることが少し寂しくも感じます。残りの小学生 Life、enjoy してね♡→※9
- .....きりとりせん.....

＜保護者の声＞ 3月号 ※感想やご意見・ご要望等、ぜひお書きの上、ご提出ください。(一部紹介させていただきます。)

年 保護者氏名：

---

---

---

## <わたしのこえ>~1月号返信より~ (※は「保護者の声」と「わたしのこえ」が呼応しています。)

### 【低学年】(1・2・3年生)

- 1ねんせいがおわるから、つぎの1ねんせいのおてつだいをしたいです。←※1
- じいちゃんがびょう気になってすぐに亡くなってしまって、ぼくはもうおこったところを人に見せるのはやめようと思いました。←※2
- 大へんだった1さつ目のあんしょうをおわることができうれしかったです。
- 校長先生がさみしい思いからうれしい思いにかわってよかったです。
- 校長先生はつらい思いがあって、音楽にであえてよかったなと思いました。
- あらためて、みんなにやさしくしようと思いました。これからも、みんなときょう力していこうと思いました。
- □名田を大すきと思っているあたりまえを、あたりまえのようにもっと大すきにしていきたいです。
- 高学年の仲間入りとなるので、低学年をひっぱっていけるような人間になりたいです。なわとびもいろいろな種類をとべるようになりたいです。(わたしも歴史が好きです。)
- なわとびが大きい、なわとびがおもったよりたくさんとべうれしかったです。いけるとしんじたのでよかったです。・であいは大切だなと思いました。←※3



### 【高学年】(4・5・6年生)

- わたしが勉強でまちがったところがあって、時間をたくさんかけて一人でなおせたことが、がんばったことです。←※4
- 弟が最近にこにこと笑ってくれて、その顔を見ると、だっこしてよかったなと、心から思いました。←※5
- 校長先生の話を聞いて、ぼくは、学校も好きでべんきょうも好きで□名田も好きになりたいと思いました。そのために、□名田のことをもっとしりたいです。
- 持久とびを初めてとべたのでうれしかったです。・二重とびがとべないから5回とびたいです。
- がんばりたいことは、前こうさとびがにがてなので、練習してうまくなりたいです。
- 今月なわとび大会があるから、前二重とびを30回とべるようにがんばりたいです。
- なわとびがにがてなので、二重とびを55回とべるようにがんばりたいです。
- 学習発表会の練習をがんばりました。ふるさとフェスタもがんばりたいです。
- 学習発表会や教育フェスタのセリフなどを覚えることをがんばりました。教育フェスタはまだ終わっていないのでがんばりたいです。・学習発表会の練習をがんばりました。←※6
- 学習発表会が終わって家に帰ったら、「OOOO、がんばったな」と母に言われて心が温まりました。
- 最近ふるさとフェスタに向けて練習していて、土曜日が本番なので、それに向けてがんばりたいです。・発表で成功するようにがんばりたいです。・ふるさとフェスタをがんばりたいです。←※7
- ふるさとフェスタ、アオッサでの発表をがんばりました。
- 2月はふるさとフェスタや里山里海湖フォーラムなどの発表の場がたくさんあるのでがんばりたいです。←※8
- 福井ふるさとフェスタで練習の成果を発揮したい。セリフをすらすらと言いたい。
- 今週の発表(教育フェスタ)や、17日の発表(里山里海湖フォーラム)をがんばります! 次に学校たよりが出るころには2つとも終わっているの、(録画を)見ながら振り返るのが楽しみです。←※9



### <5年生における新型コロナウイルス感染の広がりについて>

2月3日(土)福井ふるさと教育フェスタへの参加直後、新型コロナウイルス感染により5年生を早退および学年閉鎖としましたが、その際の感染の広がりにより、ご家族の皆様にはご心配とご迷惑をおかけしました。

実は、1月に再度インフルエンザA型の感染拡大状況が見られたため、冬季行事の実施やイベント参加を見合わせることを考えました。しかし、①1月26日(金)の学習発表会から2月3日(土)フェスタ当日までの1週間は、感染状況が収まりを見せていたこと、②インフルエンザB型や新型コロナウイルスが蔓延する状況が本校においてほとんど見られなかったこと、③大舞台発表への子供のモチベーションと教育効果が大きいこと、という3つの理由から、感染予防に十分努める呼びかけと体調不良者の状況把握をご家庭の協力と学校医との連携で丁寧に行うことで、週末に福井で行われる大規模イベントに参加する判断をいたしました。フェスタ当日は土曜日でしたが全校登校日であったため、朝の健康観察も丁寧に行い、発熱や体調不良者がいないことを確認して福井へ向かいました。フェスタ会場では到着してから昼食や開会を経て出発するまで元気で過ごす姿や発表をがんばる姿に安心して帰校しました。ですから、帰校直後から児童の発熱や新型コロナウイルスへの感染の知らせを相次いで耳にして、子供たちの体調把握や感染拡大防止対応の難しさを実感したのが正直なところです。反省すべきは、①フェスタ当日朝の健康観察を口頭確認のみで終えて検温を行わなかったこと、②長時間の往復バス内でマスク着用を義務づけしなかったこと、③福井到着から帰校までの後に再度検温を行わなかったこと、の3つであり、今後の長時間バス移動を伴う校外活動時には、これらの反省点を踏まえて、子供の命を守ることを最優先に、念には念を入れた対応を取っていきます。そして、長時間密集する場所での過ごし方はもちろん、日常生活レベルでも、感染クラスターを発生させない意識を、教員も児童もより高く持って過ごすよう努めます。

ところで、2月4日(日)から5日(月)の朝にかけて、5年生保護者の皆様が互いに連絡を取り合って情報共有し、感染の状況や登校自粛を含めて、グーグルフォームや電話で学校にいち早く情報を入れてくださったことにより、他の学年に感染が拡大することを防ぐことができました。感染されたお子様やご家族の皆様には大きなご負担をお掛けすることになり心苦しい思いはありますが、あらためて、もしもの場合における保護者間での情報共有、保護者と学校との連携の大切さを学ばせていただいたことに、心よりお礼申し上げます。